イギリス帝国主義の政治分析

富沢賢治

イギリス帝国主義のイディオロギー

レーニンにおけるイギリス労働運動論の位置

ニマルクス、エンゲルスのイギリス労働運動論のレーニンによる総承（以上、六巻三号）

三時期区分

ニ九一年～一九四八年八月－－五年（六巻二号）

ニ九一年～一九四七年（六巻一号）

ニ九一年～一九四四年（六巻一号）

ニ九一年～一九四三年（六巻一号）

ニ九一年～一九四二年（六巻一号）

ニ九一年～一九四一年（六巻一号）

ニ九一年～一九四〇年（六巻一号）

ニ九一年～一九三九年（六巻一号）

ニ九一年～一九三八年（六巻一号）

ニ九一年～一九三七年（六巻一号）

ニ九一年～一九三六年（六巻一号）

ニ九一年～一九三五年（六巻一号）

ニ九一年～一九三四年（六巻一号）

ニ九一年～一九三三年（六巻一号）

ニ九一年～一九三二年（六巻一号）

ニ九一年～一九三一年（六巻一号）

ニ九一年～一九二九年（六巻一号）

ニ九一年～一九二八年（六巻一号）

ニ九一年～一九二七年（六巻一号）

ニ九一年～一九二六年（六巻一号）

ニ九一年～一九二五年（六巻一号）

ニ九一年～一九二四年（六巻一号）

ニ九一年～一九二三年（六巻一号）

ニ九一年～一九二二年（六巻一号）

ニ九一年～一九二一年（六巻一号）

ニ九一年～一九二〇年（六巻一号）

ニ九一年～一九一九年（六巻一号）

ニ九一年～一九一八年（六巻一号）

ニ九一年～一九一七年（六巻一号）

ニ九一年～一九一六年（六巻一号）

ニ九一年～一九一五年（六巻一号）

ニ九一年～一九一四年（六巻一号）

ニ九一年～一九一三年（六巻一号）

ニ九一年～一九一〇年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇九年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇八年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇七年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇六年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇五年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇四年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇三年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇二年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇一年（六巻一号）

ニ九一年～一九〇〇年（六巻一号）
（19）レーニンのイギリス労働運動論（六）

その変化をとげたかという問題を検討することを意味する。

そこで、それはまた、世紀末のレーニンがあげたイギリス人社会の五つの特殊性の問題にかんして述べれば（民主主義の高度の発達という第1の特殊性、敵対的階級関係の弱化という第5の特殊性、社会主義の見地から当時の情勢を評価して、つぎのように述べている）。

帝國主義と國家機構の強化。レーニンは、一九一七年五月に開催されたロシア社会民主労働党（ポ）第七回全国協議会で、国際労働運動の情勢と国際資本主義の状態との見地から当時の情勢を評価して、つぎのように述べている。

「帝國主義戦争によってつくられ、された客観的状態を、往昔の資本主義が戦前以前に、特徴づける。」（第一次大戦前の「富沢」）を、二五年間に前進した、また「帝國主義の発展は、ときに二〇世紀に重大な歩みをした。資本主義の発展はすぐに急激な生産分野を、その手で示した。資本主義の高度の発達という第1の特殊性、敵対的階級関係の弱化という第5の特殊性を、分析しつつ、わが国を含むイギリス帝国主義の発展を、監督した。」（通）

このようにレーニンは、独占資本主義の国家独自資本主義への移行を重視する。しかしながら、彼によれば、帝國主義戦争は、独占資本主義の国家独自資本主義への転化過程を
一橋論叢 第六十四巻 第四号 (20)

極度にはやめ、激化させただけではなく、「全能の資本主義の本家団体とします」、かたく融合している国家による労大衆の法外な圧力は、ますますます法外なものになっている。先進諸国では、労働者にとって軍事的挑戦と転化しつつあるのである。租税資本主義の統治方式から暴力的統治方式への転化というこの二つの変化は、たんに第一次大戦が歴史的にたまたま発生させたという性質のものではない。レーニンは、第一次大戦が帝国主義によって必然的に生み出された戦争であることを論証したのであるが、彼は、この論証を基礎にして、大戦によって生きられたこれら二つの変化を自由の統治方式、資本主義を帝国主義段階において必然的な性質にとって把握したのである。彼は、「帝政主義は金融資本と独占体の時代であるが、それから解放へと向けての反動の、この分野での諸矛盾の極端な激化」という結論を導き出す。「帝政主義は金融資本と独占体の時代であるが、それから解放へと向けての反動の、この分野での諸矛盾の極端な激化」という結論を導き出す。
一橋論叢 第六十四巻 第四号 (22)

特徴は、「議会権力」の実現という上記の第一の特徴とは異なり、
 новые國家形態の強化という
強化として把提される。それは、国家機構の強化という
のような関連するのであろうか。レーニンによれば、
プーノワ國家のうちでももっとも完成し、もっとも進歩
した国家形態は、国家主義的民主的共和制である。しかし
この国家形態は、国家主義的民主的共和制と異なり、それがプーノ
ワ国家であるかぎり、その最高の目的と
しょうをえないし、そのためには、軍隊・警察・官僚と
いう官僚形態を必要とせざるを得ない。人民の上に立
つ警察、プーノワ国家のうちに忠実な下僕である官
僚、プーノワ国家のうちでもっとも完成
ある国家形態は、国家主義的民主的共和制である。しかし
この国家形態は、国家主義的民主的共和制と異なり、それがプーノ
ワ国家であるかぎり、その最高の目的と
しようと関連するのであろうか。レーニンによれば、

B. 官僚制度
レーニンによれば、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ國家
のうちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した国家形態とは、プーノワ国家の
うちでもっとも進歩した國家形態といえば、実は、君主制と同様の
ためにもう進歩した国家形態といえども、実は、君主制と同様の
ためにもう進歩した国家形態といえども、実は、君主制と同様の
ためにもう進歩した国家形態といえども、実は、君主制と同様の
ためにもう進歩した国家形態といえども、実は、君主制と同様の
ためにもう進歩した国家形態といえる。
レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。

レーニンは官僚制度をこう批判したのである。
クラシックな社会主義者、例えばイギリスやフランス
で社会主義者が入閣した場合、あるいは政権の体制を
保つためには、かねてよりアリバイの体制が保たれている
という意味です。

こうして足を踏み入れた民主主義国家においては、
官僚的な国家機構が手つかずの状態であったことを
いうのです。このため、民主主義国家においては、官僚
の実質的な権を握るためには、官僚体制が大きな障害をな
すことがあった。それのみでない。

このような官僚制批判の基礎に、レニンは「人民に
必要のは、官僚を消する・農民共同体である」と主
張する。彼によれば、例外なくすべての公務員を、選挙に
より選ばず、どちらかといえば、農民主体の農民共同体を
編組するものである。これは、農民の支配を「人民のための
暴力装置」とするものである。

C、警察と常備軍と、いわゆる「官僚軍」が、すでに述べ
ているように、官僚の支配下に現実に存在するためには、人民を統治するた
めの機関として、官僚の支配下に位置づけられたものである。

リークイーションのための直接的な暴力装置として位置づけられ
たものである。農民共同体を「警察（ならびに常備軍）」といい、彼の
表現にみられるように、人民統治のための暴力装置と
しては警察と常備軍を、本質的に同一のものとみなし
ているので、人民統治のために暴力装置として、人民統治
のための暴力装置として位置づけられ
たものである。農民共同体を「警察（ならびに常備軍）」といい、彼の
表現にみられるように、人民統治のための暴力装置と
しては警察と常備軍を、本質的に同一のものとみなし
ているので、人民統治のために暴力装置として、人民統治
のための暴力装置として位置づけられ
たものである。農民共同体を「警察（ならびに常備軍）」といい、彼の

レーニンのイギリス労働運動論（六）

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明らかのように、大戦前のレーニンは、国内のイギリ

スを政治的自由と民主主義の代表国とみなしていた。

イギリスの政治家たちがついにこの点を指摘している。イギリ

スに自由があったのは、そこに革命運動がなかったから

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明らかのように、大戦前のレーニンは、国内のイギリ

スを政治的自由と民主主義の代表国とみなしていた。

イギリスの政治家たちがついにこの点を指摘している。イギリ

スに自由があったのは、そこに革命運動がなかったから

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明らかのように、大戦前のレーニンは、国内のイギリ

スを政治的自由と民主主義の代表国とみなしていた。

イギリスの政治家たちがついにこの点を指摘している。イギリ

スに自由があったのは、そこに革命運動がなかったから

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明らかのように、大戦前のレーニンは、国内のイギリ

スを政治的自由と民主主義の代表国とみなしていた。

イギリスの政治家たちがついにこの点を指摘している。イギリ

スに自由があったのは、そこに革命運動がなかったから

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明らかのように、大戦前のレーニンは、国内のイギリ

スを政治的自由と民主主義の代表国とみなしていた。

イギリスの政治家たちがついにこの点を指摘している。イギリ

スに自由があったのは、そこに革命運動がなかったから

実の利益になる真剣な根本的改革は、警察の助けを借りては実行できない。それは客観的に不可能である。これによって実行できるだけの改革を求める産業の

D、イギリスにおける自由主義的統治方式の変化。す

で述べたように、私権のレーニンは、イギリス社会

在の自由権利として高度に発達した民主主義をあげ

明ら
（7） レーザーのネガティブスタック法

（8） 細胞のネガティブスタック法

（9） ジョイントスタック法

（10） ポジティブスタック法
都市の小ブルジョワによる「盲動」と非難した一論を批判しているが、われわれはこの批判的うわつのアイルランドの蜂起にたいするレニンの評価を読みとることができない。
まず第一に、レニンは、アイルランドの蜂起を「盲動」と規定することにたいして、これをつぎのように批判する。「科学的な意味で「盲動」と言えるのは、蜂起の企てが、陰謀家たまたいまかげた狂信者のサークルのほかにはなにも明るみに引きださず、大衆のうらなんの共鳴を呼びおこさないような場合にはある。

一方、アイルランドの蜂起は、その背後に数世紀にわたる民族運動の歴史をもって、長い間にもたれ大衆の煽動デモンストレーションの一部ないしは労働者の一部の市街戦となって現われた。このような蜂起を盲動と名づける人は、最も底の反動家か、さもなくば「プロレタリアと自覚したブルジョワこそ、それぞれ皆を盲動とみなす」ことにより、社会革命などをというものはありえない。だから、その偏見をすべていったままのブルジョワジーの一
(29) レーニンのイギリス労働運動論（六）

彼によれば、ヨーロッパにおける被圧制民族の闘争は、遠隔の植民地でそれよりもずっと大きく発展した蜂起よりも、はるかに強力にヨーロッパの革命的危機を激化させる。この意味では、イギリスの労働運動とノルウェーの労働運動がアメリカにおける蜂起よりも百倍も大きな政治的意義を持っている。レーニンは、再びイギリス帝国主義によっての力にくわえた打撃は、そのため同じであって、アジアにおけるアメリカの力にかかわらず、彼は「時機を欠いた」と述べたのである。

第三に、レーニンは、一九六六のイギリスの蜂起の蜂起がイギリスの帝国主義の革命運動の問題である。アフリカにおける蜂起よりは百倍も大きな政治的意味を持っていると述べたのである。

「革命の根拠については」、全・XXXV・三九ページ。

参考に、『国家と革命』、全・XXXV・三五一頁。
（31） レーニンのイギリス労働運動論（六）

A、帝国主義と労働運動における日和見主義。帝国主義のイギリス、イギリスにおける日和見主義との関連をレーニンがどう把握したかということ問題を考察する。

B、帝国主義と日和見主義との結びつきの典型国としてのイギリス。イギリスにおける日和見主義との関連をレーニンがどう把握したかということ問題を考察する。

C、労働運動における三潮流の帝国主義段階における労働運動の分裂現象をレーニンがどう位置づけたかという問題を考察する。

D、「中央派」批判。労働運動の三潮流のうち、とりに「中央派」をとりあげ、それにいたるレーニンの批判を「中央派」の代表的理論家であるカッフナーにたえる批判を中心ににして考察する。中央派や日和見主義をたえた批判についてすでに述べて考察してきたが、また他の潮流についてはすでに記した。検討する。中央派や日和見主義について、中央派の帝国主義と労働運動の結びつきの事実をとくに強調し、中央派という日和見主義との関係は、それが日和見主義にたいする関係と不可分に結び合わせてないなら、レーニンのイデオロギーは労働者階級のなかへもしみこみつつある。万里の長城が労働者階級を他の階級からへだ

章以下考察対象となる。A、帝国主義と労働運動のレーニンによれば、「帝国主義のイデオロギーは労働者階級のなかへもしみこみつつある。万里の長城が労働者階級を他の階級へと隔

E、帝国主義と労働運動の結びつ

F、帝国主義と労働運動の結びつ

G、帝国主義と労働運動の結びつ

H、帝国主義と労働運動の結びつ

I、帝国主義と労働運動の結びつ

J、帝国主義と労働運動の結びつ

K、帝国主義と労働運動の結びつ

L、帝国主義と労働運動の結びつ

M、帝国主義と労働運動の結びつ

N、帝国主義と労働運動の結びつ

O、帝国主義と労働運動の結びつ

P、帝国主義と労働運動の結びつ

Q、帝国主義と労働運動の結びつ

R、帝国主義と労働運動の結びつ

S、帝国主義と労働運動の結びつ

T、帝国主義と労働運動の結びつ

U、帝国主義と労働運動の結びつ

V、帝国主義と労働運動の結びつ

W、帝国主義と労働運動の結びつ

X、帝国主義と労働運動の結びつ

Y、帝国主義と労働運動の結びつ

Z、帝国主義と労働運動の結びつ

383
一橋論叢 第六十四巻 第四号 (32)

「アルジェッジ」は、まずまずの資本輸出と「利礼切り」とでくるようになるのであるが、このように、多くの国が自国の労働者が収益する労働力を獲得して、彼らをアルジェッジの国にひきつけさせる経済的可能性を生むためには、その国で労働者の個々の層を買収して、彼らをアルジェッジの国に出す重要な役割を果たす。しかも、世界分業のための誰もが目の敵対の激化、資本家が自国の労働者が収益するというこの形を世界分業と、社会主義との関係は日和見主義との関係を不可分に結合させなければならない。これがレーニンの論理であった。

まず第一、帝国主義と日和見主義との関係の経済的基礎において考察しよう。ここで注目される第一の点は、帝国主義の分裂という見方から、さらに論文を引用して、レーニンの説を考察しておこう。

「帝国主義論」における帝国主義と日和見主義との結びつきがいかなるものか、主にこの論文に依拠してレーニンの見解を考察しておこう。

第二に、帝国主義と日和見主義との政治的結合について考察しよう。レーニンは、ある国同士の労働者がその資本家がほかの国に対抗してむすぶ同盟の経済的結合を考察しよう。
可能性を強調すると同時に、すべての帝国主義国における「労働者の党」の成立の不可避性をも強調する。レーニンによれば、帝国主義段階においては、「労働者の党」の形成が、すべての帝国主義において不可避である。レーニンにとって重要かつ具体的である。「労働者の党」は、労働者階級の経済効果を成熟し完了した。「労働者の党」の形成は twentieth 世紀の社会主義の進歩を示す重要な一環である。
開されるだろう」と結論を下したのである。以上の「帝国主義論」から「帝国主義と社会主義の分裂」において、「帝国主義と日和見主義」との結びつきを解明した。「ブロック」と「イギリス」におけるこの結びつきをレーニンは、「今日では、労働運動の一時的腐敗を生み、イギリスにおけるこの結びつきをレーニンがどのように把握したかという問題を考察しよう。
レーニンのイギリス労働運動論（六）

ではすでに一九世紀の中ごろから存在していたからである。ここではイギリスにおける日和見主義発生のこのような構造は、イギリスの世界市場独占が崩壊した一九世紀の帝国主義段階において、どのように変化したのであろう。すでに本章の第十一節の「資本輸出」の項で考察したように、レーニンは「帝國主義論」において、イギリスの典型的な国であることを論証している。このようにして、レーニンにおいては、産業資本主義が典型的な国としてのイギリスが示されるのである。ところではレーニンによれば、「金利生活者国家」として寄生的な腐朽ししうる資本主義の国家であり、そうしてここの事情によって帝国主義段階においても日和見主義の典型的な国としてのイギリスが示されるのである。さらに言えば、『金利生活者国家』は、社会主義運動における強大な潮流にかんするレーニンの見解を考察することにしろう。

C、労働運動における三潮流。わが国の革命においてレーニンは、一九三零年における戦争のあたってに、国際的会合の混雑について述べ、一つの流れをつぎのような分類している。

(1)「国際主義者」。この潮流の主要な特徴は、「社会会派主義」たちびに「中央派」の完全な絶縁であり、自国のプルジョワジイが弱小民族を剝奪し圧殺し、会派主義的構造を示し、国際主義プルジョワジイと対立する献身的な革命的闘争である。原則は「『革命者』自国内に在する」ということである。彼らは帝国主義革命に関連して社会主義国家が可能であり、適切である。と主張する。このような見解にとらえても近代立場
（三）「中央派」。彼らは「社会派外主義者」と国際主義者とのあいだを動揺している人々である。レニンによれば、彼らは「自分たちのマルクス主義者、国際主義者である」。自分たちは《社会派外主義者の親和性を》んである。「中央派」が、自国の政府にたいして「その革命の必要を確信せず」、革命的闘争をおくなず、「それを逃げるための口実にしかすぎない」。中央派とは、うまくいった法的手段によって運動を展開しているのか。歴史的および経済的、組織的活動の技術の点で多くの貴重なものをもたらした一時期、一七八一九四年の時期、とりわけ、プロレタリアートにとって必要な広範な、ゆるやかな、持続的な、系統的なる組織が一時的にも現れた。彼らは社会主義革命の時代をひらいた最初の帝国主義の世界戦争にいかに客観的に必然にになった新しい時期への波及をあらわすにすぎない。

以上レニンによる《帝国主義国における労働運動の分裂の敵である》という中央派は、帝国主義国における労働運動の同業者、他方の側にプロレタリアートと半プロレタリアートの大衆を位置づけ、帝国主義国家における労働運動の歴史が、不可避的である。この産業の闘争を通じて闘争分子としての「中央派」は、なんら特別の層を代表するものではない。と位置づけられるものとして把握されていなかったことは、一九七〇年における以上の発言からだけではなく、二年後の一九四九年のつぎの発言からでも明らかである。この帝国主義の世界条件によって発展を変えるながら、社会主義者あるいは帝国主義者、または帝国主義革命のあいだにあらたなものであるという。
（37）レーニンのイギリス労働運動論（六）

では、レーニンは、「イギリスにおいてこれら三潮流をどのように分類したのであろうか。彼によれば、イギリスで社会外主義の潮流に属するのは、「ハインドマン党」、『独立労働党』および『レーニン派』と「レーニン派」（労働党）の指導者たちである。新聞『トレード・ユニオン』、イギリス社会主義および独立労働党の一部の党員（たとえば、社会主義者をはさみ、新ルールをやったためにイギリスのアラムズ・ラッセル、革命的な反戦闘争をやったためマクレーンをはじめとする役者の中数の社会主義者たちである。」

以下われわれは、イギリスの経済、政治分析を基礎とする労働運動の帝国主義的背景を考察してきた。その後われわれは、労働運動の感情のすくない社会帝国主義である。第二は、 Peripheralイギリスのマックス・ MySqlConnectionと『独立労働党』の指導者たちの内に社会主義的同盟である。この同盟は、政府の参加をますます形というものであるが、政府は政府の直接の同盟をもすんでいて、カウンターパート、労働運動にとっては、これよりはるかに有害であり、危険である。なぜならば、彼らは第一種の日和見主義者との同盟および『一致』を保護していることを、聞えたよい『マックス主義的言辞と講和』の
ローガンによって隠蔽し、もともと見ざる見ざせかけていたからである。またレーニンは「ポリス・スヴャラ
への公開状」（一九六一年一月）においては、「中央
派との闘争」、「統一」と「祖国拡張」の宣伝によって、
その協調の必要性を、つぎのような調子で強調している。

「中央派」は、「統一」と「祖国拡張」の宣伝によって、
きわめて深刻な意見の食い違いを最大の損害をもたらしている。というのでは、それに
よって社会派外主義者の道徳的構成の最終的な破壊を食い
めよ、したがって大衆にたいする彼らの影響力を維持
しない。これは、批評の歴史的な意味における社会主義者との
代表者との闘争は私にとって社会主義者としての義務を
「批評」という「社会主義者としての義務」を、カッ
キの批評というかたちで、果たしたのであり、この批
評は彼の労作「帝国主義論」、「国家と革命」等々を生みだ
していった。と言えよう。

一九六一年七月のレーニンの「カッキ批判」は、主
に指摘した事実の背景には、カッキにたいするこの
ような位置づけがあったのである。レーニンは、「中央
派」批評という「社会主義者としての義務」を、カッ
キの批評というかたちで、果たしたのであり、この批
評は彼の労作「帝国主義論」、「国家と革命」等々を生みだ
していった。と言えよう。
レーニンのイギリス労働運動論（六）

なにち、帝国主義は高度に発展した産業資本の創りある。帝国主義は、そこにどんな民族が住んでいるかに

はかわりなく、まずまず大きな農業地域を囲むべきである。すなわち、レーニンによれば、帝国主義によって特徴的なもの

を、まず第一に、産業資本でなくて金融資本であり、

経済から切りはなし、両社を金融資本の「この」と用い

る政策を構成している点にある。こうして、経済における独占

主導は、「高価で危険な」植民政策をとらないことでも、自

でさえ、裏切りをはかわらないかたち、レーニンは「イギ

リズにとる情報の是非だからこそであると考える根拠

はなにもない」などと主張する。このように、カルテシが帝国主義における経済と政治を分

離させた。その結果は、資本主義の新しい段階もと
一橋論叢　第六十四巻　第四号　（40）

二、『超帝国主義』の理論にたいする批判。カツキ

は、『経済的な見地からはすれば、資本主義が、なお一
つの新しい段階を、すなわちカルテルの政策が対外政策
をむ Modifications}
リーニンのイギリス労働運動論（六）

三、政治をたいする批判。リーニンによれば、英国の政治的性質の批判のうえに、帝国主義の政治的特性をなすものは、金融寡頭制の抑圧と自由競争の排除に関連する、あらゆる面での反動と民族的抑圧である。カヴァッキは、帝国主義によるこのよう

うな政治的反動の強化にたいして口先では反対しながらでも、実際にには、「帝国主義の時代には日和見主義者との統一が不可能だ」という、とくに緊急となった問題をはか

っているのである。リーニンによれば、すでにすべての資本主義の先進国にわたりだされているからである。カヴァッキは、过去のイデオロギーを利用したプロレタリアートとプ

レタリアートとの統一を主張し、そうすることによってこの党の威をたかめよう」と語っていることにある。カヴァッキ主義者らは、日和見主義者との統一を支持す

る模範として、大衆大衆組織との結合の重要性を強調する。しかし、リーニンによれば、このようなかたちで

大衆を誘引いかだすことは諦まねき、彼自身の見解をつぎのように述べている。「九世紀に、イギリスの労働組合は、マルクスとエンゲルスは、それだ

ルスの労働組合は、マルクスとエンゲルスは、それだ
一橋論叢 第六十四巻 第四号 (42)

からといってこの党と和解しないで、それを暴露した。

問題は組織の整備数よりも、むしろその組織の政策
の現実の客観的意義にある。すなわち、この政策が大衆
を代表するものであるか、大衆に、つまり資本主義から
の利益を解放に、役立つもので、それとも、少数
者の利益を代表し、この少数者と資本主義との和解を代
表するものであるか、ということにある。二九三世紀のイ
ギリスはまさにこのあとの場合であったが、今日のドイツ
その他の東にもそうである。社会主義者は、この
ような事態についてどのように対処すべきか。エンゲルスは、
古い労働組合の『マルクス主義の労働者党』、特徴的少数
者と、下層の大衆。真の労働者と区別することに、重大
意義をもっている。レニンによれば、『マルクス主義の労働
者』の呼ぶべき、『社会主義の歴史』のなかにある。この原
則は、レニンによって、帝国主義段階においても適用される。
すなわち、帝国主義段階においても、帝国擁護者とは少数者をも対
象にすることであるから、』もと下層に、もっと深く、真の大衆の
ところにはいかない。は、社会主義者の義務である。

レニンは『帝国主義』の定義、『超帝国主義』
の理論、政治論、三三ページにわたって、レニンのカ
ツキー批判を考察してきたが、カツキーにたいするレ
ニンの総括的評価は、つぎの文章にみることがある。

カツキーによる帝国主義の理論的分析は、帝国主義